

1. 科目名 ( 単位数 )	教育学総論 ( 2 単位 )	名古屋	3. 科目番号	EDMP5101
2. 授業担当教員	石崎 達也・金 龍哲・宋 曉鈞			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	修士課程における必修科目			
7. 講義概要	<p>本教育学研究科修士課程では、複雑化する現代社会における人間形成の諸課題を、子どもから高齢者までの自己形成と生涯発達の見点から深く捉え直す「総合的な人間教育学」を基盤にして研究する。</p> <p>本講義では、多角的な視点から「人間とは何か」「教育とは何か」「文化とは何か」という本質的な問いに取り組むとともに、教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見について理解を深めることが目的である。そこで、教育学領域を中心とした人間関係諸科学の専門的知見について理解を深めるために、教育学領域、子ども支援領域・多文化共生領域の各学問領域の専門性を有した研究者らがオムニバス形式で講義・実践演習を行うことにより、今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力を養うことを目指す。</p> <p>[ オムニバス方式 / 全 15 回 ]</p> <p>( 石崎 達也 5 回 ) -----</p> <p>〈今日〉の教育的事象を捉え直し、教育の〈未来〉について考えるためには、〈過去〉の思想家たちの書を歴史的な文脈や状況から丁寧に読み直すことが手がかかりとなる。本講義では人間理解を深めるための方法としての人物・思想研究の意義・方法について解説し、実践をととして文献研究の基礎的素養を磨く機会を提供する。</p> <p>( 金 龍哲 5 回 ) -----</p> <p>人類が経験したことのない急激な社会変化を背景とした現代教育について、幾つかの代表的な事例を取り上げて多角的視点からのアプローチを試みる。比較教育学、文化人類学の研究手法を駆使しつつ、具体的には「人生 100 年時代」における教育の制度設計、カリキュラム・マネジメントの視点からの教育資源の開発、「いじめ」の構図と学級経営の課題等に焦点を当てて問題設定を行い、議論を展開しながら教育の本質や課題について理解を深める。</p> <p>( 宋 曉鈞 5 回 ) -----</p> <p>人間はその成長過程で受けた学習・生活環境の刺激によって、生理学的適応能力を獲得し、自己の健康を保護し守っていくことである。科学の進歩と日進月歩の医療の発展により、育成したい生涯学習者としての教育者像について健康・医学に関する内容を交え紹介する。また医学基礎知識となる人体の構造と生理機能を呈示し、特に健康影響には様々な分野が絡み合っているため、健康問題をとともに深めながら具体的に論じる。</p>			
8. 学習目標	<p>[ 全体的な学習目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対話・実践演習を通して、「総合的な人間教育学」について深く考え、多角的な視点から理解すること。</li> <li>2. 教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見を学び、自らの研究に役立てること。</li> <li>3. 今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力の基礎を身につけること。</li> </ol>			
9. アサインメント ( 宿題 ) 及びレポート課題	<p>各担当教員が課すレポート課題を提出すること。</p> <p>( 石崎 達也 ) 各自の研究テーマに関連する人物・思想について考察したレポートの提出を求める。詳細は講義の中で指示する。</p> <p>( 金 龍哲 ) 授業展開の必要性に応じて課題 ( レポート又はパワーポイントの作成など ) を課す。</p> <p>( 宋 曉鈞 ) : 講義内容を振り返り、児童生徒の健康維持と増進について考察した課題の提出を求める。講義にて詳しく説明する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>【参考書】</p> <p>・佐藤達夫『からだの地図帳』、講談社、2014 年</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>【評価の規準】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「総合的な人間教育学」について深く考え、多角的な視点から理解することができたか。</li> <li>2. 教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見を学び、自らの研究に役立てることができたか。</li> <li>3. 今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力の基礎を身につけることができたか。</li> </ol> <p>【評価方法】</p> <p>出席状況及び授業態度 ( 40% )、レポート課題 ( 60% ) として、総合的に評価する。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>これからの研究者には、既存の学問分野に閉じ込められるのではなく、多様な学問分野に関心を有し、既存の枠組みに囚われない見方・考え方をしながら、自らの研究活動を行っていく力が求められている。</p> <p>将来、教員や研究者を目指す受講生には、このような幅広い広い臨床知・実践知としての「総合的な人間教育学」を基盤とした高い専門性と創造性が求められていることを自覚し、講義・対話・実践演習をととして、自らの資質・能力の向上に努めてほしい。</p>			
13. オフィスアワー	<p>石崎：事前に連絡を入れてください ( taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp )</p> <p>金：毎週木曜日 12:30—13:00 (tel: 0270-40-4101 E-mail: lojin@ed.tokyo-fukushi.ac.jp)</p> <p>宋：事前に連絡を入れてください ( soshokon@ed.tokyo-fukushi.ac.jp )。</p>			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】			

1. テーマ	オリエンテーション ― 教育学の学問的特性 (石崎達也)
<p>【学習の目標】 教育学という学問の対象と方法を理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。</p> <p>【学習の内容】 講義全体の概要と流れを説明した後で、教育学の学問的特性を学習する。</p> <p>【キーワード】 近代教育(学)・学際的な学問・抽象知と身体知・リアリティとアクチュアリティ・人間科学的な研究法と社会科学的研究法</p> <p>【学習の課題】 受講生各自の研究テーマ(研究動機・研究内容)と教育学研究との関連に関する小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 田中智志『教育学がわかる事典』、日本実業出版社、2003。</p> <p>【学習する上での留意点】 受講生各自がもつ教育学への関心やイメージを大切にしながら、学問としての教育学の輪郭を体系的に理解すること。</p>	
2. テーマ	臨床教育学について (石崎達也)
<p>【学習の目標】 臨床教育学について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。</p> <p>【学習の内容】 総合的な人間探究の学、人間発達援助学としての臨床教育学の学問的特性を学習する。</p> <p>【キーワード】 臨床教育学・生きづらさ・弱さ・感受性・ケア</p> <p>【学習の課題】 受講生各自の研究テーマ(研究動機・研究内容)と臨床教育学との関連に関する小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 中村雄二郎『臨床の知とは何か』、岩波書店、1992年。 遠藤野ゆり・大塚類『あたりまえを疑え! : 臨床教育学入門』、新曜社、2014。</p> <p>【学習する上での留意点】 受講生各自の研究テーマが、教育現場の問いや「なぜ?」という探究心に根ざしたものになっているかを確認すること。</p>	
3. テーマ	人物・思想研究の意義 (石崎達也)
<p>【学習の目標】 学問と道徳の関係、学問を志す人間のあり方について探究すること。</p> <p>【学習の内容】 テキストを精読し、ワークシートに理解した内容や自らの問題意識に即した意見をまとめ、話合う。</p> <p>【キーワード】 学問の意味、学問と道徳、生活指導、道徳教育、実学とは何か</p> <p>【学習の課題】 ワークシートを完成させ、口頭発表を行う。</p> <p>【参考文献】 福沢諭吉『学問のすすめ』、岩波書店、1978年。 齋藤孝『日本を教育した人々』筑摩書房、2007年。</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に指定箇所を熟読し、疑問点や質問などをまとめてくること。</p>	
4. テーマ	人物・思想研究の方法 (石崎達也)
<p>【学習の目標】 人間の心の葛藤を描く小説を読むことをとおして、人間理解の方法を探究すること。</p> <p>【学習の内容】 テキストを精読し、ワークシートに理解した内容や自らの問題意識に即した意見をまとめ、話合う。</p> <p>【キーワード】 心の葛藤、国語教育の実践、文学作品と教育、人間理解</p> <p>【学習の課題】 ワークシートを完成させ、自らの意見を発表すること。</p> <p>【参考文献】 夏目漱石『こころ』、岩波書店、1989年。 齋藤孝『日本を教育した人々』、筑摩書房、2007年。</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に指定箇所を熟読し、疑問点や質問などをまとめてくること。</p>	

5 . テーマ	人物・思想研究の実践 (石崎達也)
<p>【学習の目標】 各自の研究テーマに関連する人物を深く探究したレポートを作成し、報告すること。</p> <p>【学習の内容】 受講生による口頭発表を行い、各発表に関して話合う。</p> <p>【キーワード】 資料・研究文献の検索・収集法、論文作成につながるレポートの書き方</p> <p>【学習の課題】 これまで各自が研究してきたテーマに関連する人物を選び、レポートを作成し、報告すること。</p> <p>【参考文献】 資料配付、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 先行研究や文献等、十分な資料収集を行った上でレポートを作成すること。引用参考文献も付記すること。</p>	
6 . テーマ	(金 龍哲)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	
7 . テーマ	(金 龍哲)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	
8 . テーマ	(金 龍哲)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	
9. テーマ	(金 龍哲)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	
10 . テーマ	(金 龍哲)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	
11 . テーマ	身体の構成と機能。思考力や行動力を生み出す脳の不思議さを知って置きたい (宋 曉鈞)
<p>【学習の目標】 人間はその成長過程で受けた学習・生活環境の刺激によって、生理学的適応能力を獲得する。生体の内部環境の恒常性、酸素とエネルギーを身体に取り組み仕組みについて理解する。</p> <p>【学習の内容】 (1)細胞・体液の組成、生体恒常性の調節について理解する。 (2)器官・器官系、身体の構成と働きの機序について理解する。 (3)エネルギーを身体に取り組みの機序について理解する。 (4)思考力や行動力を生み出される脳の生命活動について理解する。</p> <p>【キーワード】 学習と生活環境、身体の内部環境、細胞と体液、エネルギーの産生機序、脳の生命活動</p> <p>【学習の課題】 ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布する資料を参照。参考書：「人体解剖図」、坂井・橋本、出版社「成美堂」2020年</p> <p>【学習する上での留意点】 人間の生理機能と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。</p>	

12.テーマ	健康維持に依存する生体の免疫・感染防御機能。自己を守る為の生理機序を理解する(宋 曉鈞)
	<p>【学習の目標】健康維持に依存する生体の免疫反応は、いろいろな細胞がさまざまな手段を駆使して働いている生体防御の為の複雑なシステムである。微生物や寄生虫等の感染に対して、抵抗力と防御力を与えるのが免疫系である。感染性の病原体に対する免疫系の対応は、自然免疫システムと、獲得免疫システムがある。免疫系の基本的システムを習得する上で、生体防御システムの知識を深める。</p> <p>【学習の内容】(1)免疫防御機構の特徴(自然免疫と獲得免疫)について理解する。 (2)獲得免疫の機序:液性免疫と細胞性免疫の仕組みについて理解する。 (3)病原性微生物感染と免疫反応について理解する。</p> <p>【キーワード】自然免疫、獲得免疫、自己、非自己、抗原、抗体、補体。</p> <p>【学習の課題】有益な免疫現象が感染防御機能として働くこと、他方抗原変化が激しいヒト免疫不全ウイルス(HIV:エイズの原因ウイルス)等に対しては抗体がウイルスの感染を阻止できない理由を把握する。</p> <p>【参考文献】授業内で配布する資料を参照。参考書:「病気が見える⑥:免疫・膠原病・感染症」、医療情報科学研究所編集、出版社「メディックメディア」2015年</p> <p>【学習する上での留意点】抗体は単独で細菌(やウイルス)を傷害(破壊)できないことを理解する。抗体の役割を把握すること。</p>
13. テーマ	生命の営み:免疫系と自律神経系及び内分泌系との深い関係、ストレス反応が起こるメカニズム(宋 曉鈞)
	<p>【学習の目標】免疫系と神経・内分泌系は密接に連携しており、ストレスが免疫系の働きに悪影響を及ぼすこと、さらに免疫系が消化器系、循環器系、泌尿器系などの細胞を傷害することについて理解を得る。</p> <p>【学習の内容】脳がストレスを感じた場合に、神経・内分泌系の作用によって免疫機能の低下を招くこと、一方免疫系が他の臓器細胞に傷害を与える現象を臓器別に解説する。</p> <p>【キーワード】ストレス、副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)、副腎皮質ホルモン、ノルアドレナリン、アセチルコリン</p> <p>【学習の課題】精神的なストレスが引き金となって各種のホルモンを分泌させ、その結果免疫系に影響を及ぼすことを把握する。さらに免疫系が各種の臓器細胞を傷害することを理解する。</p> <p>【参考文献】授業内で配布する資料を参照。参考書:「脳の事典」、坂井・久光、出版社「成美堂」2019年</p> <p>【学習する上での留意点】免疫系と神経・内分泌系の関係にはホルモンが比較的複雑に作用するが簡潔に理解すること。</p>
14. テーマ	小児期から発生した知的障害と発達障害。教育支援法を考える。(宋 曉鈞)
	<p>【学習の目標】知的障害と発達障害の共通点を把握しながら、基本的な支援の考え方と配慮を理解する。</p> <p>【学習の内容】知的障害は全般的な知的機能と適応能力の発達の遅れ、IQと適応能力で軽度～最重度に分類される。発達障害はASD(自閉スペクトラム症)、ADHD、学習障害(LD)等が含まれ、脳機能の偏りによる特定の分野(社会性、コミュニケーション、学習等)の困難が特徴、併存も多く、区別は難しい場合もある。両者いずれも脳機能の障害で日常生活に困難が生じる特徴を解説する。</p> <p>【キーワード】知能指数(IQ)、適応能力、ASD、ADHD、LD。</p> <p>【学習の課題】「知識の断片化と応用困難」「抽象概念の理解不足」「実行機能(計画性、自己制御)の弱さ」「短期記憶の弱さ」「コミュニケーションの困難」「自己肯定感の低下(二次障害)等について理解する。</p> <p>【参考文献】授業内で配布する資料を参照。参考書:「介護福祉士養成講座・障害の理解」、介護福祉士養成講座編集委員会、出版社「中央法規」2019年</p> <p>【学習する上での留意点】知的障害と発達障害の共通点と相違点について簡潔まとめて理解する。</p>
15. テーマ	先天異常(先天性疾患)。脳性麻痺の学習支援法を考える(宋 曉鈞)
	<p>【学習の目標】先天異常の定義と分類を理解しながら、遺伝性而非遺伝性疾患を区別する。</p> <p>【学習の内容】先天異常(先天性疾患)とは、生まれつき身体や臓器の形態及び機能に異常がある疾患や障害の総称で、遺伝子の異常、染色体の異常、妊娠中の環境影響(薬物、感染症など)が原因で起こり、3～5%の新生児に見られるが、原因が特定できない場合も多いである。各臓器で発生した異常、特に脳性麻痺の特徴を認識しながら、先天性異常の種類や症状、度合い等に応じた治療法や対応法を学習する。</p> <p>【キーワード】遺伝子(DNA)、染色体、妊娠中の環境要因(薬物、感染症)、高齢出産、脳性麻痺。</p> <p>【学習の課題】先天異常の危険因子を熟知する。例えば、遺伝性疾患または染色体障害、特定の薬品または化学物質の曝露、妊娠中の特定の感染症や高齢妊娠等の起因を理解する。</p> <p>【参考文献】授業内で配布する資料を参照。参考書:「介護福祉士養成講座・障害の理解」、介護福祉士養成講座編集委員会、出版社「中央法規」2019年</p> <p>【学習する上での留意点】先天異常の特徴、如何に脳性麻痺児の学習を支援するか。</p>